三重縣宇治山田市新地圖

種別	戸數	職工數	生産高	價額
生糸	三	一五六	一八九〇ノ斤	三〇〇〇〇〇ノ圓
機織	五	五五	二八〇〇ノ反	五四〇〇ノ反
絹織物	二	五七	二七〇〇ノ反	三七〇〇ノ反
綿織物	二	五七	二七〇〇ノ反	三七〇〇ノ反
麻織物	二	五七	二七〇〇ノ反	三七〇〇ノ反
蚕種	一	一〇	一〇〇〇〇〇ノ枚	一〇〇〇〇〇ノ圓
蚕糸	一	一〇	一〇〇〇〇〇ノ斤	一〇〇〇〇〇ノ圓
蚕繭	一	一〇	一〇〇〇〇〇ノ斤	一〇〇〇〇〇ノ圓

伊勢參宮便覽

序

我が伊勢の神宮に詣する人數の年毎に多きを加ふる是偏に神宮敬ふべき心念の厚きに感じ給ふ故にこそ遠近の人々の中には未だ不案内の人も多からん人々の爲に三重縣宇治山田市街地圖付宮便覽なるものの必要を認め茲にものして左に紹介せむ。

【一】伊勢の國名の起り並に國造の始

神武天皇、都を畿内に定め玉ひし時、天日別命を遣して、東方を平定めんとせしに、伊勢津彦、命に從はず、即ち兵を擧げて之を伐す。天日別命に敗られて國神の名を取り、伊勢の國と號け、この國造に任ぜらるる。(伊勢風土記)

【二】皇大神宮御鎮座

倭姫命、垂仁天皇の御詔を奉じて、大御神を戴き、諸國を巡幸して、宇治の五十鈴の川上に、鎮め奉らせ給ひたり。これ實に、垂仁天皇の二十六年九月十七日なり。(皇元五七)

【三】神國並に大神主の始

倭姫命、伊勢の宮に鎮め祭りし大若子命を、大神の御神宮、伊勢の宮に鎮め祭りし大若子命を、天一幡命に、神國の護として、自ら神國の造と定め、之を奏聞せしに、天皇、大若子命を、神國の造として、愛稱して、大神主に任じ給ひたりと。(大同本紀)

【四】豐受大神宮御鎮座

垂仁天皇の廿六年、大御神を、伊勢の宮に鎮め祭りし大若子命を、天一幡命に、神國の護として、自ら神國の造と定め、之を奏聞せしに、天皇、大若子命を、神國の造として、愛稱して、大神主に任じ給ひたりと。(大同本紀)

【五】神宮事彙

風土記に、伊勢の國、丹波郡(今丹後)比治の真奈賀原より迎へ奉りし豐受大神を、雄略天皇の二十二年九月、山田原に鎮め奉り、天皇、即位元年、千百三十八年にして、皇大神宮御鎮座より、後ること四百八十二年なり。

【六】年中(行事)祭典

歳旦大御饌(一月一日)元始祭(一月一日)紀元節大御饌(二月廿一日)祈年祭(二月廿一日)神嘗祭(十月十日)月次祭(毎月十日)月次祭夕大御饌(毎月十日)月次祭朝大御饌(毎月十日)月次祭(毎月十日)月次祭夕大御饌(毎月十日)月次祭朝大御饌